

秋田大学 正 員 清水浩志郎

秋田大学 学生員 門口和彦

秋田大学 学生員 田中英樹

1. はじめに

わが国における諸都市は、戦後の高度経済成長に基づく産業構造の変革と、交通施設の充実等により、急激な都市化をみせた。

ところが、近年の都市化現象の研究において、都市圏の衰退（逆都市化現象, disurbanization）が問題にされるようになってきた。これは、1970年代を境として欧米先進諸国の多くの大都市圏において、都市圏人口の純減現象がみられるようになり、大都市圏からの人口流出がもたらす都心部における夜間人口の空洞化や、財源の悪化により発生する諸問題などが、重大な政策課題となったためである。ところで、昨今の東京、大阪といった大都市圏でも、都心部では夜間人口の激減現象が生じ、すでに逆都市化の萌芽がみられる。そこで、わが国における都市圏の成長過程を考える場合においても、欧米先進諸国同様、逆都市化現象についての研究が重要な課題となるものと思われる。

本研究では、このような問題認識をふまえ、人口の動向や産業構造の変化といったマクロ的視野から、時系列的な都市圏の成長過程、とくに逆都市化現象の過程を分析することにより、将来の都市像を予想し、これを土地利用計画、交通計画に反映させようとしたものである。なお、本研究では、調査対象地域を全国98都市圏とし、昭和35年から昭和55年にいたる20年間について実証的解析を試みた。

2. 逆都市化現象の定義

逆都市化という言葉は、都市化に対峙して用いられる言葉で、都市化現象が一概に定義できないのと同様に、逆都市化現象も様々な側面を持っているため、研究者の定義によりその意味と内容を異にしている。だが、逆都市化現象が研究されるようになった要因が、都市圏のライフサイクルとして考えられる、都市圏人口の減少により発生する都市内部における諸問題の解決であることを考えた場合、逆都市化現象を実証的に分析しようとする、都市圏人口の減少を逆都市化現象と仮定して分析を行なうのが最も妥当で、かつ一般的でもある²⁾。

本研究では、そういった意味で、都市圏の人口動向及び、以下に示すR値を用いた中心都市と周辺地域の成長指数の対比により都市圏を以下に示す7つのグループに分類することにより、逆都市化段階にある都市圏を選定した。

$$R \text{ 値} = \left(\frac{b_{ti}^I}{b_{ti}^L} \right) / \left(\frac{B_{ti}^I}{B_{ti}^L} \right)$$

b_{ti}^I, b_{ti}^L : 地域iの時点 t_1, t_2 における人口
 B_{ti}^I, B_{ti}^L : 時点 t_1, t_2 における全国人口

		都市圏人口の増加			
		プ ラ ス		マ イ ナ ス	
		中心都市のR値		中心都市のR値	
		1.0以上	1.0以上	1.0以上	1.0以上
周辺地域のR値	1.0以上	A+	C+	—	C—
	1.0以下	B+	D+	B—	D—

図-1 逆都市化現象判定図

図-1から、A+型、B+型、C+型、D+型は都市圏全体としては人口は増加しており少なくとも成長を続けている都市圏であるが、その成長過程を中心都市、周辺地域の人口増減でみると次のように分類できる。A+型は都市圏全体の成長都市圏、B+型は集中型成長都市圏、C+型は分散型成長都市圏、D+型は低成長都市圏といえる。また、B—型、C—型、D—型は衰退段階にある都市圏で、逆都市化現象を示す都市圏、あるいは、都市圏的機能を低下させつつある都市圏といえそうである。すなわち、B—型は集中型衰退都市圏、C—型は分散型衰退都市圏、さらにD—型は都市圏全体の衰退都市圏と分類できる。

3. 逆都市化過程の分析

2で掲げた分類法により、昭和50年から昭和55年にいたる5年間について、全国98都市圏をグループ分けすると表-1/のようになる。これら過去20年間の変化をみるため、表-1/中の上段に昭和35年、中段に昭和55年の資料を示している。

表-1/によると、この5年間に衰退現象が起こった都市圏として、B—型：八戸、小山、岡山、篠山、久留米の5都市圏、C—型：該当都市圏なし、D—型：岐阜、清水、伊勢、大阪、和歌山、下関、今治、佐世保の8都市圏、合計13都市圏があげられる。

これら昭和50年から昭和55年の間で逆都市化現象が

生じたと思われる都市圏は、人口の動態から2つのタイプに分類できる。ひとつは、まず中心都市の人口減少が生じ、ついで周辺地域の人口減が生じたもの。他は、周辺地域が、近隣の他都市圏へ包含されたために都市圏全体の人口減が生じたもので、この原因には交通機関の発達に影響しているものと考えられる。

また、地理的には、八戸や九州での久留米、佐世保を除くそのほとんどが、太平洋ベルト地帯と呼ばれる地域に存在し、経済成長による著しい都市化をみせた地域に集中していることがわかる。

次に、表1の各グループ別の都市圏について、産業別人口比及びその他の都市圏構造の分析を試みた。産業構造でみると、主に2つのタイプに分けることができる。ひとつは、A+型、B+型、B-型の都市圏で、このタイプは第1次産業及び第3次産業人口比が高く、第2次産業人口比が低い産業構造をもつ。また、中心都市と周辺地域との産業構造の較差が大きく、中心都市の侵食が比較的小さい都市圏といえる。もう一方はC+型、D+型、D-型の都市圏で、前者の逆のタイプである。このタイプの都市圏でも第3次産業人口比の伸びは著しく、そのためとくにC+型、D-型の中心都市においては第2次産業人口比の低下がみられる。

また、中心都市人口比及び中心都市人口密度についてみると両者ともC+型、D-型の都市圏で大きい値を示すが、時系列的には減少の傾向にあり、中心都市における人口の分散化が考えられる。

以上の分析により、簡単に逆都市化都市圏の特性をまとめると、①中心都市人口の増加が止まり、逆に周辺地域や近隣都市圏への人口の流出が目立つ。②昭和35年当時から第2次産業が発達していたが、昭和40年代後半のオイルショックの影響により第2次産業の伸びがおさえられたために、都市圏人口の伸びも小さくなった。③隣接する都市圏が成長を続けているため、周辺地域がこの都市圏に包含されつつある。などの点があげられる。

3. まとめ

本研究では、逆都市化現象についてマクロ的分析を試みた。しかしながら、本報告で提案した手法で十分に逆都市化現象を分析できたとは思っていないし、事実逆都市化が生じたか否かわからない。それは、逆都市化現象は、産業、社会、交通現象が重層的に作用し他の地域との競合関係に基づいて生じた現象ともみられ、そのため、より多面的な検討が必要であるからである。今後の研究課題はここに残されている。

表1 グループ別の都市圏構造

	都市圏名	第1次産業		第2次産業		第3次産業		人口比 (%)	人口密度 (%)	流入原 単位	流出原 単位
		中心	周辺	中心	周辺	中心	周辺				
A+	札幌										
	仙台										
	水戸										
	大田										
	長岡										
	豊橋										
	奈良										
	山口										
	高知										
	大分										
B+	旭川										
	秋田										
	山形										
	青森										
	岩手										
	宮城										
	福島										
	茨城										
	栃木										
	群馬										
C+	新潟										
	富山										
	石川										
	福井										
	岐阜										
	長野										
	山梨										
	東京										
	神奈川										
	千葉										
D+	宮城										
	山形										
	福島										
	茨城										
	栃木										
	群馬										
	新潟										
	富山										
	石川										
	福井										
B-	八戸										
	久留米										
	小田原										
	大田										
	長岡										
	豊橋										
	奈良										
	山口										
	高知										
	大分										
D-	岐阜										
	清水										
	伊勢										
	大田										
	佐世保										
	下関										
	今治										
	佐世保										
	大田										
	佐世保										

上中下
段段段
.....
昭昭変
和和化
3555量
年年

参考文献

- (1) 清水 浩志郎「わが国諸都市圏の成長発展形態について」地域学研究第12巻,日本地域学会,1981
- (2) L.H.Klassen「Transport and Reurbanisation」Gower,Hants,England,1981
- 川嶋 辰彦「都市盛衰と逆都市化現象」新都市,第38巻,第3号,1984
- 山田 浩之「都市化の経済分析・序論」季刊,現代経済, spring, 1981